

平成30年度第4回北空知保健医療福祉圏域連携推進会議
(北空知圏域地域医療構想調整会議) 議事録

日 時 平成31年3月25日(月) 18時～19時40分

場 所 プラザホテル板倉 1階 「雄山」

出席者 別添「出席者名簿」のとおり

議 題 [協議事項]

1 北空知地域医療構想推進シート(案)について

[報告事項]

1 北空知地域における「人口構造の変化」・「受療動向」・「病院・有床診療所の状況」について

2 地域医療構想調整会議の活性化のための地域の実情に応じた定量的基準の導入について

3 在宅医療の提供体制の「地域単位」(案)に対する意見について

4 北海道における小児在宅医療の現状と取組について

5 北空知地域における糖尿病重症化予防の取組について

議 事

1 協議事項

(1) 北空知地域医療構想推進シート(案)について

ア 事務局(齋藤企画主幹)から資料1に基づき説明

(特記事項)

- ・ 修正意見はなく、今後の取扱について事務局に一任された。

イ 質疑応答 有・無

藤澤副会長) たいせつ安心iネットは、(患者さんの)同意が得られたカルテのデータが少ないようだが、活用状況について伺いたい。

事務局(山岸企画総務課長)) 当該ネットのホームページで公表されている実績では、2019年1月31日現在の情報照会件数は、医科112件、歯科11件、調剤薬局16件、訪問看護2件となっている。

2 報告事項

(1) 北空知地域における「人口構造の変化」・「受療動向」・「病院・有床診療所の状況」について

(2) 地域医療構想調整会議の活性化のための地域の実情に応じた定量的基準の導入について

ア 事務局(齋藤企画主幹)から資料2、3に基づき一括説明

(特記事項)なし

イ 質疑応答 (有・無)

(3) 在宅医療の提供体制の「地域単位」(案)に対する意見について

(4) 北海道における小児在宅医療の現状と取組について

ア 事務局(齋藤企画主幹)から資料4、5に基づき一括説明

(特記事項) なし

イ 質疑応答 有・無

藤澤副会長) これまでの医療的ケア児に対する医療などの支援が不十分なので、これから十分な対応をしていこうということか。

事務局(谷田室長) 医療的ケア児への支援は旭川市内の医療機関等が中心であるが、深川や滝川など遠方のお子さんが旭川市内の施設に短期入所するなど、現在も必要とする資源につながっている。今後はさらに関係機関の皆さんと意見交換をしながら、地域包括ケアの中心に居る患者、子供、高齢者が、色々なところによりつながりやすくなる最善のシステムとなるよう取り組みたいのでご協力をお願いします。

(5) 北空知地域における糖尿病重症化予防の取組について

ア 事務局(齋藤企画主幹) から資料6に基づき説明

(特記事項) なし

イ 質疑応答 (有・無)

3 その他

(1) 地域医療構想に関する意見等

平山深川市副市長(山下委員代理) 深川市立病院のあり方としては、将来にわたり市及び圏域の住民に良質な医療サービスを提供できるよう医療機能の充実と健全な経営に努めていくというのが基本的な考えであり、医師不足の解消のためには、道内の医育大学と連携して医師確保の取組を強化し、北空知4町並びに深川医師会との連携協力の下に、切れ目のない医療提供体制を維持することが重要と考えている。

また、昨年、北空知1市4町で策定した「定住自立圏共生ビジョン」に掲げる具体的な取組を着実に推進するとともに、医療や介護においても広域連携の強化をより積極的に進めてまいりたい。

廣瀬妹背牛町副町長(田中委員代理) 資料2の外来患者の受療動向を見ると、妹背牛町民の地元診療所を受診する比率が約16%と他市町と比べてかなり低く、診療所の存続を危惧している。地域で唯一の医療機関がなくなるということは、今まさに進めている在宅医療と逆行するため、へき地医療、在宅医療における連携はますます重要になると考えている。

また、当町では、定住促進賃貸住宅建設事業を実施し、民間アパート建設に対する助成を行うこととしているが、高齢者の住まい確保に向け、高齢者向けの賃貸住宅の整備も視野に入れて事業を進めていくこととしている。

高鶴秩父別町副町長(神薺委員代理) 病床削減については、地域医療構想には「病床数の適正化による医療費圧縮」と「切れ目のない医療提供体制の構築」の2つの側面があるが、国と現場の両者の間にはその2つの優先順位のギャップが生まれているという指摘もある中、それらの解消が重要である。

在宅医療の提供体制については全道的に進んでいないが、町民は急変時に入院可能な体制や家族の負担軽減のためのサービスの充実など在宅医療に不安を抱えているので、在宅医療等の人材確保についてもご検討いただきたい。

高橋北竜町副町長（佐野委員代理） 資料2の受療動向を見て、当町において中空知の受診者が多いのが意外だった。救急搬送はほとんどが深川市なので、後で状況を確認したい。

当町では、今年から生活支援コーディネーターを設置し、町内のボランティア支援者を含めた在宅医療介護のシステムづくりを実施している。

黒田委員） 町立沼田厚生クリニックには、在宅医療の取組を期待しているところだが、圏域の関係者の皆様にも改めてご協力をお願いする。

また、高齢者の住まいの整備、医療介護従事者の確保については、当町としてできる限り努力しているが、診療所の運営や介護施設・事業所等の運営に関し財政的に負担が大きくなっていることが課題であり、将来に向けてどのように維持・整理していくか地域全体で検討していかなければならないと考えている。

北林委員） 人口は減少しているが、救急搬送件数は増えており、去年は千4百数十件と過去最高を記録した。少子高齢化を反映して搬送人員の約8割が高齢者であり、整形外科に限れば高齢者は約9割、冬期間はほとんどが高齢者である。前日も発言したように、整形の場合は滝川、砂川、旭川の搬送先の病院が決まるまでに時間を要する難しさはあるが、国家資格を持つ救急救命士が医師の指示の元でできる医療行為の範囲が広がっているので、今後もフル稼働で救急搬送に取り組んでまいらる。

大西委員） 常に言っているが、病床数に関しては、この地域では全然問題はないし、人口減によって自ずと決まってくるので、会議で議論する必要はないと考えている。

在宅医療に関しても、この地域の家族構成では推進することに無理があり、老人福祉に長く携わって長男の嫁が在宅介護で苦勞している姿を目の当たりにしてきた立場からすれば、国が全国一律に在宅医療を推進していることがすごく無責任に思える。

伊東委員） この会議ではあまり話題として出てこないが、在宅歯科診療に取り組んでいる医師はいる。ただ、機材がない中で行うので、診療室で行う普通の診療と同じことはできないという限界はある。

野田委員） 薬剤師の立場で在宅の関りに携わっているのは、多くの場合調剤薬局の薬剤師である。病院での大きな問題は、薬をきちんと飲めない患者さんが増えていること。退院後に薬をきちんと管理できるよう、訪問診療する医師に薬剤師が同行するなどして薬を正しく飲むよう指導することは重要と考えている。

寺下委員） 人口は減少しているが、世帯数は横ばいで、一人暮らしが多くなっている。また、二人暮らしでも、二人そろって健康という世帯が減っているので、結果として訪問介護サービスを必要とする世帯が増えており、介護サービスを提供する側としては、人的にも財政的にも悪戦苦闘している状況である。

佐々木委員） 看護の現場でも人員不足という問題はあるが、地域のために何ができるかを考えて、困ったときに安全安心な看護を提供できるよう努めている。例えば訪問看護サービスの提供や介護サービスとの連携など、看護の部分で身近で安全に役立つよう地域の皆様を支えていければと考えている。

紺野委員） 北空知における医療的ケア児は3名とのことだが、全国の医療的ケア児が10年で約2倍に増加し、在宅で人工呼吸器療法を受けている小児患者が10年間で10倍に増加していることから、北空知においても、子供の数は減っても医療的ケア児が増えていく可能

性があるのではないかと考えると、対応できる重症心身障がい児の受け入れ可能な施設がないこと等が大きな課題になるのではないかと心配である。

中井委員) 民生児童委員の活動は、高齢者の困っていることを解決するために色々なところにつなげていくこと。特に気をつけているのは、一人住まいや引きこもりがちの高齢者で、その人たちにいかに地域の活動に参加してもらうことができるか、それによって少しでも寝たきりの状態になるのを遅らせることができることを目指して、頑張っているところである。

(2) 地域医療構想アドバイザーからの助言

笹本アドバイザー) 地域医療構想アドバイザーは、調整会議事務局への情報提供などにより調整会議の議論が活性化するよう支援すること。本日会議に参加させていただき、情報共有がなされた中で議論が進められていると理解した。「地域医療構想に係る意向調査」や「地域医療構想推進シート」は北海道独自の取組であるが、推進シートを更新することで問題意識を共有しながら議論を進めることができるので、今後も活用していただきたい。

また、北空知は、深川市立病院が医療提供体制の要なので、病院が疲弊しないよう1市4町の皆様で協力しながらもりたて、支えていっていただきたい。

藤澤副会長) 笹本先生、貴重なご意見ありがとうございました。先生のご意見を踏まえて取り組んでいくので、今後ともよろしくお願いします。

以 上